愛國婦人會機關

愛國婦人

每月十日廿五日發行

(定價)一枚金錢五厘一ヶ月分七錢三ヶ月貳拾壹錢半年分四拾貳錢一ヶ年分八拾四錢全國無遞送料郵券代用(壹錢又は五厘切手)一割增
廣告料五號活字一行四拾錢

發行所　東京市麹町區下二番町三十七番地大日本女學會內　愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

電話番町壹千三百三十番

社說

日本人の無形財產

山澤俊夫

左の一篇は私の年來の持論てあッて、已に私が設立致して居ります大日本女學會の機關雜誌『をんな』にも昨年九月に一通り掲げましたが、玆にも亦其大體を述べて本誌愛讀者諸君の同意を得んとを切望致します。

財產には形の有るのと形の無いのとがあッて、土地・家屋・金錢・器具などは形の有る財產で學問・技藝・信用・健全なる精神・高尙なる思想等はいづれも形の無い財產てある。世間で財產を澤山に持ッて居る人を富者と云ひますが、私の思ひますには、有形の財產を澤山に持ッて居ッても、無形の財產に乏しくては眞正の富者てはない、有形無形共に澤山持ッて居る人が眞正の富者と謂ふべきであると考へます。

さて日本人の有形財產は何程あるかと云ふに、經濟家の調査に據りますと、日本の財產總高は大凡百十三億圓であッて、日本の人口に割りあて平均一人に付き二百五十圓位だと云ふとである。然るに歐米諸國の平均一人前の財產を統計表に據て見るに、少いのでも日本人の四五倍で多いのは九倍もある。故に日本人は有形財產の上に於ては甚だ貧乏である。歐米人から輕蔑を受けても仕方はない。

然らば無形財產は如何であらうかと云ふに、學藝に於ては歐米諸國が科學・哲學の本家本元である。日本人は彼等の著述した書物を讀んだり、彼等の學校に留學生として入門したり、彼等から技術の傳習を受けたりして漸く今日まで進步したのであるから、まだ〱幼稚であッて、迚も肩を比べる譯には行かないのである。又歐米の或國に於ては切符なしに汽車や電車に乘せたり。外國人が買物をしても價に相違がないと云ふ樣な一二の例を見ても、信用の點に於て日本人は遙に及ばないことが分る。又其體格に於ても大層劣ッて居るから、健全なる精神は健全なる身體に伴ふものとすれば、此點に於ても及ばないのである。然して見ると無形財產に於ても、日本人は殘念ながら貧乏人たるを免れない。無形財產は數の計算は出來ないが、是も有形財產の比較位相違があるかも知れない。

然るに此處に一つ不思議な事がある。其れは他でもない、日本軍の强い事である。日本軍は身體が矮小で、體力は非常に劣ッて居る、又今日の兵學や操練は日本固有のものでなく、皆獨・佛・英などから教授を受けたので、彼等は先生であるから先生の方が巧い筈である。然るに一昨年の北淸事件の時、各國の聯合軍中に在て日本軍が最も戰爭が强く、最も規律が正しかッた事は各國が齊しく認容した所であるが、是れは如何なる原因で斯樣に强のであらうか、實に不思議では在いませんか。』何の點に於ても日本人は劣ッて居るにも拘らず、戰爭にかけては一番强いと云ふのは、何か日本人に特色があるに相違ない。其特色は何であらうか、忠君愛國に富める高尙なる思想である。是れが日本人の鉅額なる無形財產である。今日の日本は此無形財產で維持せられて居るのである。(未完)

論說

自稱代名詞に妾の字を用ゐる可否

白樺舍主人

婦人の自稱代名詞に「わらは」と申すのは、童の如く足はぬものである、といふ謙遜の意である。これに「妾」の字を充てゝ用ゐるのは、支那人の口吻を學んだので、甚いかゞはしいことゝ思ひます。そも〱「妾」の字に「わらは」といふやさしい意味は、決して含まれて居りませぬ。「妾」はやはり「めかけ」「てかけ」といふ厭ふべき意味の字である。說文に「妾の言たる接なり」彙苑に「妾は君子に接見することを得て、伉儷を得ざるを言ふ」とありまして、下賤の者で、高貴なる人の玩弄物となり、卑屈に甘んじて、恥辱とも何とも思ひませぬ支那の婦人は、男子に對しますれば、誰にても、卿の妾と申して厭ひませぬものと見えまして、自稱代名詞に「妾」といふ語を用ゐてをりますが、淸淨潔白なる我が日本の貴婦人、令孃達までが、それに倣ッて「妾」「妾」と口に仰しやりましたり、ものに書いたりせられますのは、甚お氣の毒なことと思ひます。妾の本場とも申すべき支那では妾を殆ど家畜の鷄豚と同樣に扱ッて居ります。其證據には、禮記と申す經典に「妾を買ふに、其姓を知らざる時は、之を卜す」とありまして、全く公然と賣買する品物に見做されてある。又、鮑生と申す酒徒が、己の畜ッておきます妾を、友人の馬と取易へましたことがある、それを、洒落なる佳話としまして、詩や文に作りますし、張巡と申す唐の豪傑が、籠城中に食物が盡きましたら、最愛の妾を斬殺して、其肉を煮て士卒に喰はせたといふ慘酷窮まる所行がある、それを忠烈なる美談として、歷史に特筆大書してあります。是等は全く豚や鷄と同樣の畜生と思ッて居るからの事でござりませう。しかるに日本の淑女達が、馬と取易へられたり、煮て喰はれたりしまする畜生同樣の妾である、と自ら稱へられまして、恥辱と思はれぬ譯は、決してありますまい、と思はれますのに、今日立派なる貴婦人、令孃達が、「妾」「妾」と平氣でお用ゐになりますのは、不思議千萬ではありませぬか。卑屈に甘んずる支那婦人の根性におかぶれになッた次第でもありますまい、全く「妾」といふ字の意味にお氣が附かれなかッたからの誤でござりませう。

かやうに申しましたら、最早誰方も「妾」と仰しやることは快くありますまい、しからば「妾」にかはるべき適當の代名詞は何がよからうといふお尋がおこりませうが、私は「わらは」でよろしい、とお答へいたします。

國文で書きます文章なり、手紙なりには、「わらは」と假字でかけば、澤山である、何も苦しんで文字を用ゐる必要はありませぬ。もし候文の手紙に「わらは」と書くのも不似合だ、とならば、その場合には「私」と書くがよろしい。一步すゝめて、私は、「童」の字を書いて「わらは」とよまするがよい、と思ひますが、これはすこし異樣であらう、と考へられる方もありませうから、强ひてお勸めは出來ませぬ。兎に角に假字書の「わらは」が、無難で、穩當で、優美で、宜しうござりませう。

又純粹の漢文や詩の中に用ゐますのに、「私」でもすみますまい、さりとて「余」とか「予」とか「我」とか書きましても女らしくない、やさしくない、といふ方もござりませうが、純粹の漢文や詩は、もと〱支那人の眞似事でありますから、「妾」とお書きがありましても何とお書になりましても、敢へて私の論ずべき範圍では、ござりませぬ。漢文專門の大先生方にお尋になりましたら、他に適當な文字が、いろ〱ござりませう、私は只國語・國文の上に就いて申すのでござります。

奥村女史の演說に感じて　京都副幹事長　靑木光子

國のためいのちにかへて盡さなむ
　たらぬかちなる我身なからも

京都支部會員の千人にあまれるをよろこびて

まごゝろをこめてつくさばますらをに
　いかでおくれんをみななからも

愛國婦人會のため盡し給ふ人々の多きをよろこひはへりて

評議員　子爵夫人　本多延子

もろ人の心ひとつにつくします
　此うれしさを何にたとへん

國を思ひて

かたちこそ男をみなのかはりあれど
　などかかはらんつくす心に

評議員　中山幸子

それ衣身にまとひても國のため
　つくす心はにしきなりけり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

演說

交際の必要

評議員　鳩山春子

左に掲ぐるは小石川協和會に於て夫人がものされたる演說の大要なり

私が先頃歐米に洋行いたしました時分深く感じましたは、豫て聞いて居りました西洋の文明は、露國の外は下即ち人民より上に及ぼすと云ふ事を實地に見た事で在います、即ち中央の都會は勿論米國ではヴヰクトリヤ、シヤトルの如き田舍でも、其人民の靈能上・物質上の實力が共に十分發達して居り敎育事業は勿論商業上の信用より種々の公共事業も行き屆き、家屋の建築なども政府のものよりは民有のものが遙かに立派なのには驚きました。

斯の如き有樣で在いまして、人民の勢力・信用・富は實に非常のもので、此人民の勢力・信用・富は、即ち一國の勢力・信用・富であります。政府の上官許りが有力に富有に有識にありましても、それは一國全躰より見ますれば實に最小部分で、一般人民が貧困・無氣力・不信用で御座いましたならば商工業も振はずして、終には政府をも支ふる事が出來ぬ樣になる事は歷史上昭かの事と考へます。

文明國におきましては、人民がよく交際を樂み、常識に富んで居りますから人民も決して無理・無法・我儘・卑劣の事は唱へない樣に察せられます、若し唱へましても、勿論輿論が之を擯斥しますから恥辱となる事は明白であります。全躰家にばかり居まして、外部の人と交際しませんと自然考が狹くなり、自分に都合よき事ばかり考へ、廣き他人に同情を表する念が薄くなり、輿論を重んぜぬ樣になります、即ち他人と交際しませんと他人が何と思ふも痛痒を感じません樣の有樣になり、從て信用の重ずべきを顧みず、不德の所業を爲すも法律にさへ觸れざれば宜しいと申如き考へを持ち、又法律に觸る可き事を爲すも、法律を逃るれば利口者であるなど考へる如き野卑に陷る憂があるかと思ひますが、廣く世間に出でますと一事一動正理に遵ふ事を致しますれば、自然交際社會より擯斥さるゝ事故、自分に名譽・財産・學識等わりて、世人より知らるれば知らるゝ、程德行を勵行する樣に致し、其位地、相當の人物にならねば世に立てぬ樣になります。亞米利加などにて上等の身分の人程親切に、丁寧に、禮義に叶ひ居る事を感じましたが、之れは交際より來る輿論と申すものは、十目の見る所十指の指す所、自然に公平なものて重んずべきものであると申す事を覺り居る爲めであると思ひます。

左れば我日本人も今よりは質素清潔なる交際を初め、世人一般に信用の重んずべき事を覺り、無理、無法・我儘・卑劣・虛僞・怠惰等は決して永續せざるを知り、我國の品位を高め、所謂上よりの指導許りを待たず、人々自ら勵みて文明を下より作り出す樣に致したいと考へます。

それには斯る平和・清潔・圓滑なる會に於て、心を合せ力を協せて能く質素・清潔なる交際を結び、共に相樂み、共に相勵み、よき習慣をつけ、德性を涵養する事は最も必要と考へます。

以後は御家族方も一層多く御出席相なり此小石川區に於て、率先して清潔なる男女交際の模範を日本全國に示されん事を偏に切望に堪へません。

これは即ち日本人民の德性を涵養する上に非常の効力ある事であツて、從て我國の信用を增し、富國の基ともなる事と存しまして一言御祝ひ申上ます、缺敬の段は幾重にも御免しを願ひます。

寄書

○海軍茶話

海軍大尉　長尾耕作

愛國婦人に何か寄稿せよとの御話を受けましたが、無骨一偏の我輩ですから、何を申上げれば宜しいか、聊か躊躇しましたが、我輩の申上ぐる位の事は、令夫人方は既に御承知でもあるし又敎育上とか、躰育上とかの事は、我輩が申上げないでも、其筋の方が澤山有りますから、矢張り相變らず、自分の權内にある事柄を御話致す事と決定しまして、譯の分らぬ樣な表題を掲げました。茶の事ですから牛飲するだけの量は供せられません。令夫人などは更に牛飲などの事はありますまいから、假令ひ請求がわつても無量に獻じませぬ。併し粗末な煎茶の出空らてある事は、豫め承知して戴きたい。

軍艦觀覽と觀劇　海軍と云へば先づ軍艦を思ひ出させる。先年我海軍は擴張の急に迫られ、歐米諸國に注文し、又は内地で製造した軍艦の數は頗る多數であるが、其費用も亦巨額である事は記す迄も無い。斯く製造された軍艦は、隨分多數の人が實地に觀覽して、軍艦の形位は見當も承知して居る域に至つたので、我輩甚だ喜ばしい、然し令夫人などが軍艦を觀覽せらるゝは、第一、軍艦に往復の小蒸汽又は端舟の不便、艦内階段の昇降頻繁なる事、狹隘なる場所を通過する不便などが多いので、或る點に於ては快樂よりか、苦痛を與へはせぬかと思はるゝ、事もあるが、觀劇のため狹い棧敷に十時間も安座して不潔の空氣を吸ふよりか、遙かに利益であるから屢々觀覽されん事を望むのである。

軍艦の名　軍艦の名は、命名の法が一定してをる譯でなく、種々になツてをるが、戰艦即ち最も大きな軍艦は、大抵山とか國とかに關係がある、朝日・三笠・敷島・富士等の如く、又巡洋艦は高砂・吉野・須磨・明石・千歲等の稍優美の意を含んでをる、外國の軍艦でも、名譽とか、勝利とか、高貴の名、勇士の名等を附けてある。一般に英語では軍艦は女性に取扱はるゝに、其名は勇壯剛毅等却て反對を示してをる。日本の水雷驅逐艦に、夕霧・不知火・海雲等の名があるので、或は之を怪く思ふ人があるかも知れぬが、驅逐艦の性質は、變幻出沒恰も夕霧の如く、不知火の如き、動作を要するから、其名も是に出でたので、決して太夫とか云ふ、不潔の女性から導き來たのでない、他の驅逐艦の名を列記すれば、明白な事實で、漣・東雲・叢雲・雷等は、皆驅逐艦の性質に的中してをるのである。此事は我輩曾て或る敎育雜誌にも幾らか載せておいたと思ふ。

軍艦の進水　軍艦の進水は、丁度女の出產に相當する、軍艦は其船臺に、龍骨を据られてから、進水の日までは妊娠中と同じで、龍骨安座式は男子の手で行ふ、即ち種が船臺に蒔かれるのである本年三月下旬、英國の新戰艦「エドワード」七世（皇帝と同名）の龍骨安座式には、現皇帝陛下が臨幸せられて式を行はれたさうである。龍骨が置かれて後は、助骨となる鋼材・外板・甲板を張るべき梁材等は、日夜職工の手で組立てられ軍艦の外形が一通り出來て、浮泛し得る樣になつたならば即ち臨月が來たので、滿潮時に進水せらるゝのである。本年三月英國戰艦の「クイーン」（女王の意）は、現皇后陛下が臨幸されて、進水式を擧げ、又戰艦「プリンス、オブ、ウエールス」は「ウエールス」王妃殿下が行啓ありて、進水さるるとの事である。日本で行ふ進水式では女性の列すべき定めも無く、又例が無いが日本の軍艦が外國で進水せらるる時、日本公使の夫人が、進水式に列して、儀式上の事を行ふ事は、屢々新聞紙上にも散見したのである。兎に角女性との關係があるのは、其進水が、出產に似てをるからの事であらう。（嗣出）

○軍事と婦人

羅山生

往昔希臘國スパルタの婦人は、其夫や子供が戰爭に行きて生きて旋るを耻としたといひ、今日獨逸の婦人は第一に軍人を愛慕するといふがスパルタが當時强かツた如く獨逸も今日は世界の强國である。尙武と云ふことを國是とする以上は、軍人がモテなくてはならぬ。軍人がモテぬやうな國では、今日弱肉强食の此世界でどうして立行けやう。支那や朝鮮を見ば思ひ半ばに過ぐるであらう。軍事を度外に置いて居ツた亞米利加でさへ今日あの通り金を費してあの通り力を盡し出したのである。さて古來尙武國たる我日本はどうであるか、軍人にはどんな人がなり居るか、軍人がどの位モテて居るか、畏くも皇族の御方々が悉く軍人にあらせらるゝに拘はらず、皇室の藩屏とか唱へらるゝ華族樣はいかに、華族にして軍人たる人は寥々晨星も啻ならぬではないか。高等官や豪商の子弟にて軍人になる者は藥にしたくもないではないか。さて又軍人が世間からどう扱はれ居るか、平生薄給に安んじ、事あれば眞先に國家の爲めに斃るゝに其遺族は扶助料が不足で食ふことが出來ぬ、今度扶助料も改正になり增加はしたが、あの位の改正では子供の多き遺族などは矢張糊口に足らぬ、戰爭の時や凱旋の時はワイ〳〵いはれるが、平時に復すれば穀潰しだの、軍備縮少だのの聲を聞く誠に可憐なわけだ。幸に此頃愛國婦人會といふ善い目的の會が成立たが、どうか盛大になしたいものだ、婦人の同情ほど難有いものはない、往時のスパルタ程に行かずとも、今日の獨逸位に成ねば駄目だ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人傳

神功皇后

下田歌子

季節はかはりたれど、同じ名に呼ぶ五月とし言へば、古きを温ねて、新らしき代にも昔を知れとや、五月人形は、わりしながらに飾られたるが中にも、先づ、中央の上坐を占め給へるは、神功皇后の御像にして、朝鮮問題の、朝毎の新聞にも、見ゆる日多き此頃は、是れがいにしへの三韓今の朝鮮を、女性の御身にて、征服し給ひし、御方にかと、小供の眼をさへ引く事の多き、思へば、いと尊くも畏こくもあるかな。

神功皇后は、息長足姫尊と申して、息長宿禰の御女、開化天皇より四世の裔に渡らせ給へり。紀元八百五十年代の帝、仲哀天皇御即位の二年に、皇后の御位に登らせ給ひしが、同八年といふ年、天皇は、筑紫の熊襲を親征させ給ひ、同國橿日宮を大本營と定めて、賊を追伐し給ひき。然るに皇后は、深く思召すよしのありければ、一日、天皇に奏聞せさせ給ひけるやうは、筑紫の熊襲しば〱背きて、王師を煩はし、萬民を惱まし侍る事は、たゞに、熊襲一類のしわざにはあらず、惟ふに、外國の新羅、いつも、そが後援をなす故にこそあらめ。願くは、早く海を渡りて、賊の根據を拔き、勝に乘じて、熊襲を討ち給はゞ、一擧して、必ず、滅ぼし給ふ事を得べし。然らざれば、よし縱令、一度は、御軍利ありとも、天皇、御軍をかへし給はゞ、賊は再び盛りかへして、幾度も、皇威を犯しまゐらすべし。いかで、其儀を容れさせ給へと理りを盡して、申しすゝめ給ひけれども、天皇、皇后が征韓の策を容れ給はず、なほ、熊襲と戰ひ給ひけれども、皇軍、常に利を失ひ、あまつさへ、天皇は、病みて俄に陣中に崩じ給ひぬ。實に、天皇御親征の軍を出だし給ひし、翌年の事なりき。皇后の御歎き、また今更に言ふよしも無かりしかども、若し、敵に崩御のよしを悟られ、味方に、諒闇の旨を知られたらんには、士氣沮喪して、徒らに、賊の鋭意を添ふるなりと、思召しはからせ給ひ、竊かに、武內宿禰と、御協議ありて、喪を秘して、なほ、天皇御在世のさまを粧ひ、別將を置きて、熊襲にあたらしめ、御親らは、男子の裝ひをなして、同年の十月に舟師を率ゐて、三韓に押し渡り、新羅、高麗、百濟の王を威服せしめ、年々の朝貢八十艘を奉りぬべく、若し此誓ひに背かば、天地神明の冥罰を蒙るべし。縱令、鴨綠江の水逆さまに流れ、日月の西より出づる事ありとも、變り申さじとぞ、王は契りまつりにける。皇后は、斯く思ひのまゝに、三韓をまつろはせ、任那に日本府を置き、有司をとゞめて凱旋し給へるは、同じ年の冬十二月にぞありける。皇后は、殊にたゞならぬ御身に渡らせ給ひしを、國家の爲に、斯かる大志を企て給ひ、成功いとめでたくて、筑紫に歸り給ひし後、平らかに皇子は生ませ給ひにけり。是れぞ、次の帝應仁天皇には渡らせ給ひぬる。さても、皇后は、所生の御子を皇太子に立てさせ給ひ、そが攝政として、六十有九年の長き星霜を重ねさせ給ひ、寶算一百歲にして崩じ給へりき。后が攝政の御間、大いに、三韓の文明を輸入して、國運の進行を計らせ給ひける事、また、その御武功にも讓らざりけり。

皇后は、實に、わが日本帝國の開闢より今日に到るまで、女性として、文武の御功績のこよ無きはいふまでも無く、男子の中にだに、是れに双ばん人の、また多くあるべしとも覺えず。あはれ、水穗御國の御すゑに住めるわれら女性の、掛けまくは畏こき、神功皇后の大御稜威には、つまだて及ぶべきにあらずとも、せめては人の妻として、母として、將た女として、其室家に宜しからん、令名をだに殘さゝらんには、やがて逝くらん、黄なる泉の下に、また古人にあはすべき、面ぞ無かるべき。世界は開けぬ。文物は進みぬ。されども、吾人が社會には、むかしの跡に越えつといふ、きざしも見えぬこそ、返す〲も、口惜き限りなりけれ。

○教育敕語訓蒙（承前）

湯本武比古

是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン

みぎやうの おこなひ ある ひとは、てんしさまに ちうぎな こくみんと いはるるは もちろんの こと、かつ わが こくみんの せんぞはみな みぎやうの おこなひを なしたる、ちうぎな こくみんで あつたゆゑ、そのしそんが、いま また かやうに てんしさまに ちうぎで ある ときは、すなはち せんぞの こころざしを なし、ならはしを つぎて、これを よに あらはす わけゆゑ、また せんぞに よく つかふる、かうかうな しそんと いはるるものぞ。されば これを ちうかう いつちと いひ、みぎやうの おこなひをすすむる、わがくにの をしへを、ちうかうの をしへと いふ。

斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民の倶に遵守スヘキ所

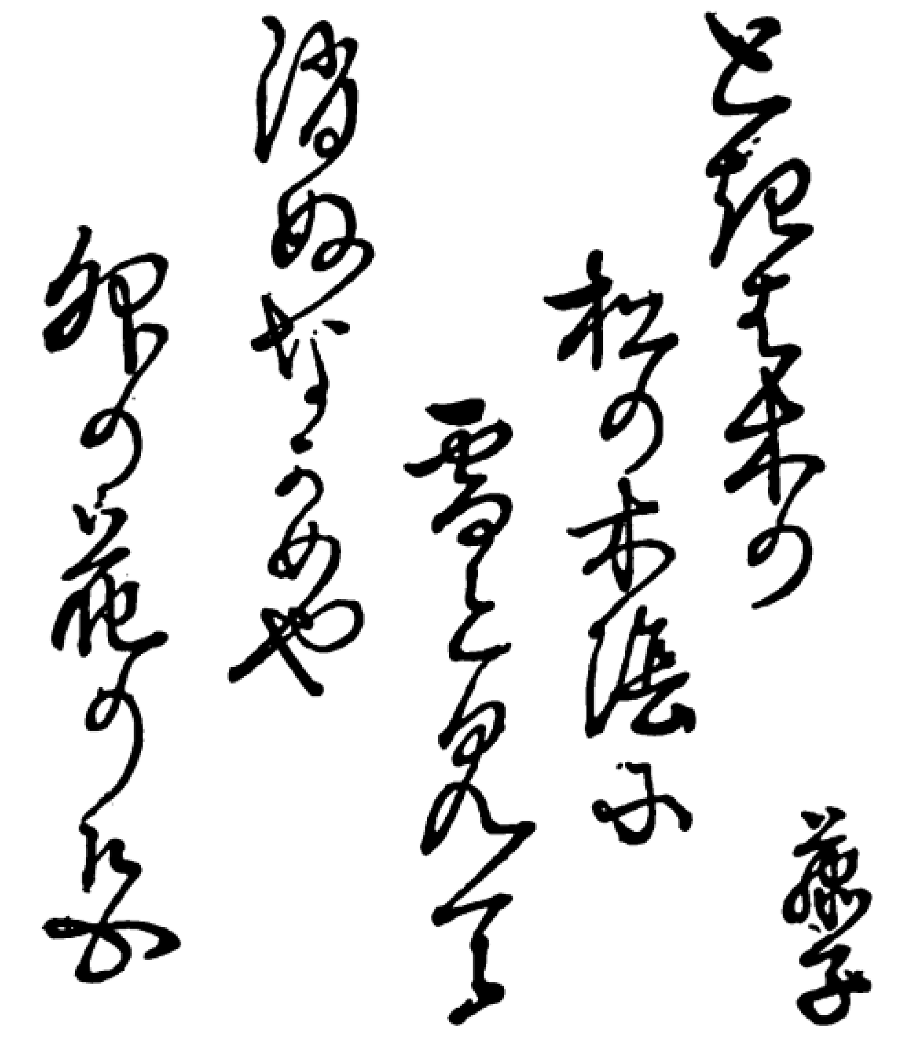
この ちうかうの みちは、てんしさまの ごせんぞさまたちの、おつたへのこし なされた をしへ なれば、その ごしそんなる てんしさま はじめ、くわうぞくの かたがた、および につぽんこくみんの、みなともに したがひ まもらねば ならぬ をしへで ある。

之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス

このちうかうの をしへは、むかしより いまに いたるまで、あやまり なく、いまよりのちに いたりても、たがふ まじく、また わが くにに おいて、おこなはるる ばかりで なく、ぐわいこくに おいても、さしつかへ なく おこなはる べき、ただしい まことの をしへで ある。

朕爾臣民ト倶ニ拳々服膺シテ咸其德ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

かやうに たつとい をしへ なれば、てんしさま ごじしんも、われわれ こくみんと ともに しばらくも わすれぬやう、たいせつに おまもり あそばして、わが くにびとが、ぜんたい いつち して、ちうかうの おこなひに、はげむやう ありたい ものと、おのぞみ あそばすことで ある。（完）



評議員　子爵夫人松前藤子筆

詞藻

愛國婦人の發行を喜びて　東京　會員　松下享子

日にそひていやしけるらんをみなへしふかき惠みの露のひかりに

奥村五百子刀自のまごゝろを　兵庫　會員　栗飯原ふさ子

いとあつき君かま心身にしみて世のをみならも國につくさむ

愛國婦人をはしめて讀み侍りて　同

ますらをか花と散りにしいさをしをおもふは君かなさけなりけり

愛國婦人の隆盛を祝して　愛知　會員　名取願子

吹きおくる花の香よりも嬉しきはひらきそめたるけふのふみまき

まことある心のほとも深見艸匂ひこもれる文そ此文

奥村刀自の遊説にとて我里に來られければ　同

生ひ初てほともへなくに言の葉のふみの林は世にさかえけり

奥村女史の遊説演説を聞きて　岐阜　會員　某　女

この君のあつき心のひとすちにもゝのをみなもうこかされけり

奥村刀自のために　群馬　會員　曾根外枝

みさとしに涙こぼさぬをみなごは國をおもはぬ人といはまし

國の爲めつくしゝ君がまごゝろはいく千代かけてかをりゆくらむ

愛國婦人會の主旨をきゝて　神奈川　會員　征子修子

國のため盡すまことはかはらしなあかき心の惟のひとかけ

全會の設立を祝して　同

をみならもこぞりて國に盡しなば射むかふあたもあらしとぞ思ふ

寄軍人　同

國のため女ながらもつくさなんつくせ武夫心おきなく

奥村五百子女史をよめる歌　群馬　會員　曾根外枝

御國をおもふをみならの　まこと一つに咲き出てし
花の色香をたゝへばや　かゝる床しき言の葉の
花を咲かせし人やたれ　肥前唐津の一婦人
姓は奥村名は五百子　もゆるがごとき心もて
御國にむくいまつらんと　齡耳順にちかけれど
とほき海原うち渡り　からの荒野に入りまして
血をふみ屍をこえながら　親しく戰地のあり様と
わが軍隊の勞苦とを　くはしく視察を遂げ給ひ
あふるゝごとき情もて　傷兵病者をみまひつゝ
あるは慰めあるは說き　御國を愛づるまごころに
席あたゝまるひまもなく　忠勇義烈のますらをが
遺族救護の方法を　語りさとして國のため
我も盡さん盡せよと　つひに名だたる姫だちの
力あつめて去年の春　立てし愛國婦人會
花の色香ともろ共に　にほひ出でたる嬉しさよ
先にはとらの臥すといふ　朝鮮國のおとろへを
かよわき手もて救はんと　千辛万苦の末つひに
敎の道を開きけり　あゝ博愛にとめる女史
あはれ慈善にあつき女史　かゝるいみじき此君と
ともに御國につくさんと　まとひとつに咲き出てし
めでたき花の文の上に　世にたぐひなき此君の
赤き心をたゝへばや　あつき情をたゝへばや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

○家事要領

家事衛生　第一　育兒(つゞき)

一、學者の説に據れば、泰西にては母親の乳は一晝夜に凡そ八合より一升餘り出るものなりと云ふ。思ふに日本婦人は總じて體格が劣る故に、是程の量は出でざるべし。然しながら少くも五六合は出づるならん。然らざれば小兒を養ふに足らず。

一、泰西にては母親の哺乳する月日概して短く、或は全くなさゞるものさへ少なからず。日本に於ける母親授乳の歳月長きは良き習慣なり。小兒の爲に宜しきのみならず、授乳は母親の血液の循環を盛んにし、平常よりも身體強壯となるものなり。

一、母親の身體に故障ありて乳出でざるか、乳質惡しきかの場合には他の養育法を執らざるべからず。其法は第一乳母、第二生牛乳、第三煉乳なり。

一、乳母を雇入るゝには左の點に注意すべし。乳母は身體強壯にて其年齡生母と同年位、若くは多少乳母の方が少きをよしとす。又分娩の時も略同じきを要す。乳房の大にして締れるをよしとす。垂乳は乳の質わしく、分泌も少なきものなり。是迄座職せし者よりも勞働せし者をよしとす。但し雇入後も是迄と甚しく生活の有樣を改めざるやう、勞働せし者ならば小兒の守の他に洗濯など勝手向の手傳を爲さしむべし。乳母の血統を穿鑿し、癲癇・發狂・肺勞・癩病・黴毒などの遺傳なきものを選ぶべし。又乳母が產みし小兒に惡しき病氣はなきか、をも取調ぶべし。是迄食し慣れし食物と大差なきものを與ふべし。乳汁の分泌を盛にせん爲に滋養物は必要なれども、假に食し慣れざる美味を與ふる時は却て乳汁の止まるとあるものなり。乳母の性質は小兒に影響するなり。温順にして惡しき癖なき者を選ぶべし。

○裁縫の寸法

◎被風仕立の女合羽

○竪衿丈の積り方は　身の丈の出來上り寸法より竪衿下りの六寸を減じて、之に上下の縫代の一寸を加へたるものを竪衿丈と定めます。

○小衿丈は　竪衿下りの二倍に縫代を加へたるものであります。

○小衿の裁方は　被風のやうに巾四寸になすと、月形になすとの二樣あります。又其外に半巾にて長さ一尺四寸の別切にて中に厚紙を心に入れ、巾一寸五分以上一寸七分までにして仕立つるものとあります。

○仕立つる寸法　袖丈は着物より三分長くなし、袖巾は八寸七八分か九寸位袖口は着物と同樣です。袖付は着物より一分多く、衿肩も一分多く、後巾は身やつ口の止まりにて七寸五分、裾にて八寸、前巾は身やつ口の止まりにて五寸五分、裾口にて六寸、竪衿下り六寸、竪衿巾は裾口にて四寸上にて三寸五分、小衿丈は一尺二寸巾四寸、丸みは角より巾も丈も二寸八分づゝにして形を付け、別切を心に入れます。

○肩當は　切に衿肩を明くる時は　後の方を一寸許り長くする方がよう在います。

○内上の仕方は　並は衿肩より後は一尺一寸五分、前は一尺二寸五分位下げて致しますが、身の丈高き人は並より一寸位づゝ多く下げて内上を致します。

○飾紐の付方は　上前も下前も竪衿の先きの方へシャカの付きたる方を付け、輪の方は身頃の方へ付けます。又下の紐の付方は竪衿丈の眞中より上になして、下前の方は脇縫と竪衿との眞中に付けるので、其の付方は飾紐の表に綴糸の出ぬやうに花の廻りを殘らず綴付けて次に打紐又は別切にて巾五分、長さ一尺程の紐を絎けて下前の竪衿丈の眞中と、上前の脇縫とに絎付けるのであります。

◎男道行觸

○積り方は　袖丈の出來上り寸法に縫代の五分を加へ、之を四倍して總尺の中より減じ、次に竪衿丈は身の丈の出來上り寸法に前下りの一寸を加へて、此中より竪衿下りの四寸を減じ、之に縫代の一寸を加へたるものを竪衿丈と定め、又竪衿丈を二倍したるものと前後の差六寸の二倍、即ち一尺二寸とをさきに總尺より袖丈の四倍を減じたる殘りより減じて、之を四にて除すれば後丈を得ます。後丈には前後の差六寸を加へたるものが前丈であります。

○衿肩の裁方は　二寸二分の所まで眞直に印をなし、殘り五分に丸みを付けて裁切ります。

○小衿丈の度り方は　竪衿下りの四寸と竪衿巾(上方)三寸五分と衿肩の出來上り寸法との三つを加せ、二倍して夫れに縫代を加へたるものを小衿丈と致します。

○仕立つる寸法　袖丈は着物より三分長く、袖巾九寸身の丈は羽織と同樣です。竪衿下り四寸、巾は下四寸上三寸五分、小衿巾七八分にて別切を心に入れます。其他は羽織と同樣で在いますから略します。

○結紐の付方は　シャカと輪とのみの飾なれば、シャカの方を上前も下前も小衿の山の所に衿先を縫ふ時に結びを一寸程出づるやうにして縫付け、輪の方は小衿を付くる時共に衿肩より二寸程下りたる所に長さ一寸程出して、下前は表身頃に上前は裏身頃の方へ縫付けます。

○花結の飾紐の時は　被風と同樣に後より縫付けるのであります。

◎西洋料理の食事心得

評議員　津田梅子

此一編はかつて津田女史が大日本女學會の評議員に對して談話されたる所なるが、極めて有益なれば其が中の一節をこゝに掲げつ。

◎食事の時は、婦人は凡て其手袋を脱るべきです。食巾は膝の上に、程よく廣げ置くがよろしいので、之を高く胸の邊より懸け下げ置くなどは見惡きものです。凡て食巾は口を拭くにも、手を拭くにも自由に用ゐて、宜しい。

◎料理の第一番目に參るのはスープで在います。スープを喫くに、手を曲げ食匙を縦にして、其尖より吸ふのはよろしく在いません。矢張り食匙の横より喫くので在います。スープを掬ふに、手前より向ふに掬ふやうにすべしといふものも在いますが、必ずしも拘はらなくとも宜しう在います。但し皿を傾けて、悉く掬ひ出し、餘瀝をも殘さゝらんとするやうなのは見ても見苦しう在います。又喫きます時に吸ふ音を立つるのは、獸類の爲る所なりとして、歐米にては小兒の時から、よく注意して居ります。食匙を皿にあてゝ音たつるなどは勿論よろしくありません。

◎凡て食事を致しますときは、肱を食卓の上に置いてはいけませず、また皿などに手を掛くるのも不可ません。

◎麺麭を喫べますには、手にて引裂きて食するので、食刀は用ゐないことになって居ります。麺麭の斷片を以て、肉などを食叉に寄せ集むることなどは差支は在いませんが、麺麭を以て、殘れる汁をかきよせ〳〵奇麗に嘗め盡すのは不體裁で在います。又麺麭を粉にしてスープの中に散らすなどもよろしき事では在いません。

◎料理の肉類を食刀にて程よく切り置き、食叉を右の手に持ちかへ、一つ〳〵刺して食べますのは、米國流でございますが、英國流にては、矢張り食叉を左に、食刀を右に持ちて、且つ切り、且つ喫べるので在います。

◎一品の料理を食し終へなば、食刀と食叉とを並べて、右の方に皿に寄せかけて置くのです。

◎魚の肉、又はオムレツのやうな凡て柔かきものは、食刀を用ゐないのが、正式で在います。但し魚肉のために銀の食刀を供へられてある時は之を使ふものです。

◎食品は皿にて頒たれますのが多いのですが、又、大きな入れ物に入れて、給仕が持ち廻はり、客人をして自から分ち取らしむることも在いますが、かういふ場合には、手奇麗に程よく分け取るべきは申すまでも在いません。凡て自分の皿の上のものにても、食べ終へたる後を餘り取り散らさず一まとめに整へ置くがよろしう在います。

◎食品のうちにて好まざるもの、或は最早十分になりたるものは、强ひて喫べるにも及びませんが何にもかにも手をつけぬやうにするのは、失禮で在います。何事にても程よくするが肝心です。

◎注ぎゆかれたる酒はいつ用ゐましても差支はありません。食事の間に給仕は、時々酒を盃に注いで廻はるのですが、若し飲むことを欲しません時は、靜に其由を給仕に斷わりて宜しう在います。

◎本號第一頁に於て例に從ひ肖像寫眞をかゝぐべき筈なりしが、寫眞師に於て寫眞銅版をつくりそこなひたる爲にて、而も其事既に發行期日にさしせまりての申出てなりしかば、再びつくり直す餘日なく、甚だ遺憾ながらやむを得ず其まゝ發行せり。決して本號より之を廢したるにはあらず、幸に讀者諸君の諒察を願ふ。

●前號の寫眞附錄有田義臣夫人滿壽子とせしは有田の誤りなり

●本號には例に從ひ理事德川公爵夫人兵庫縣支部幹事長服部夫人評議員中山幸子刀自の肖像附錄を添ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎本號第一頁に於て例に從ひ華族寫眞をかゝぐべき筈なりしが、寫眞師に於て寫眞銅版をつくりそこなひたる爲にて、而も其事既に發行期日にさしせまりての申出てなりしかば、再びつくり直す餘日なく、甚だ遺憾ながらやむを得ず其まゝ發行せり。決して本號より之を廢したるにはあらず、幸に讀者諸君の諒察を願ふ。

◎前號の寫眞附錄に、有田義臣夫人滿壽子とせしは有田[illegible]の誤りなり

◎本號には例に從ひ理事德川公爵夫人兵庫縣支部幹事長服部夫人評議員中山幸子刀自の肖像附錄を添ふ。

宮廷錄事

◎農作の御下問　我　天皇陛下が萬の事ともに大御心を注がせ給ふは兼々漏れ承る所なるが、本年は春分の交より天候兎角不良にして寒暖順を失ひ各地晩霜降雪の被害あり、農作物に及ぼせる影響の尠からざるを聞召させられ、養蠶、茶芽の發育、麥作等の收穫等に付深く叡慮にかけさせられ、侍臣に命じて當局者に被害の程度狀況等を御下問あらせられたるやにて、農商務大臣は謹で命を承はり、直に各府縣の農事試驗場支場より管下の狀況を詳細電報せしめ、此程具に奉答する所ありたりと。

◎御救恤　岩手縣下岩手郡の火災及宮城縣加美郡の火災の趣を聞召され、岩手へ金三百圓宮城へ金五百圓を御下賜相成りたり。

◎皇后陛下　華族女校へ行啓あらせられ、同校生徒の運動御覽ありたり、尙當日　陛下より同校に金二百圓御下賜ありたるよし。

◎東宮御巡遊　前號に記し奉りたる如く皇太子殿下には御見學の爲め愈去る廿日御出發相成りたるが順次左の各縣下御巡行あらせらるゝよし。
○群馬　○長野　○新潟　○福島　○山形　○岩手
○青森　○秋田　○宮城　○茨城

◎皇太子殿下外國御旅行　皇太子殿下には御外遊の御企てある趣にて、其時期は明年五月にして、其節は御朋友として有栖川中將宮殿下御同航あそばさるべく、齋藤大夫、木戶侍從長、伊藤式部職主事の隨行申上ぐる外に、伊藤侯爵も隨行の儀を希望し居らるゝよし。

◎皇太子妃殿下御着帶式　彌よ去にし十五日御擧行相成れり、宮中にては午前九時より、賢所大前にて奉告祭を行はせられ、東宮御所にては午前十時より東宮御代拜丸尾侍從、妃殿下御代拜吉見女官の參拜あり十時よりは東宮御所に九條公、及鷹司公夫妻、侍醫等參殿し吉例によりて鷹司公夫妻より妃殿下に御着帶を參らせ、御産婆之を受けて妃殿下の御身につけ奉つり、之にて御式濟み、皇太子殿下は更に表御殿に出御、有栖川宮殿下及び伊藤、九條兩大勳位、鷹司、德大寺、田中、花房、香川、岡澤、川村、佐々木、林、橋本、戶田の諸氏に御祝宴を賜はりしが、當日　天皇　皇后の兩陛下及び各内親王殿下より御祝儀を進せられたり。

◎東宮殿下に直訴す　東宮殿下去る廿一日高崎御出發あらせられんとて御車停車場前に進まする◦高崎館の前より羽織着流の向齢五十二にして身の丈け四尺に足らぬ青森縣人當時群馬縣寄留の海老名要吉なるもの「哀訴し奉る」と書きし封書を捧げ殿下の御車目蒐けて進みしも殿下御通過の後にて齋藤大夫以下の手にて制せしも彼猶供奉の人々に御取上げを願ふうち刑事巡査來たり之を制し扈從の警部車を飛び下り之を高崎館に引き入れ取調べたるに彼は鐵器事件の事を哀訴せるなりと申立てたり。殿下には無事出發あらせられたるよし。

◎奥村五百子刀自遊說日記（承前）

五月一日　岐阜市東本願寺別院にて演說會開會、羽島郡笠松村大谷派別院女人講總代三谷とみ子、熱心なる贊成演說をなし、次て刀自の演說あり、聽衆一千餘名、即時入會申込者拾餘名ありたり。午後七時三十分發汽車にて大垣市に赴き代議士金森吉次郎氏方に投宿。

同　二日　縣立大垣中學校にて演說會開會、金森氏の紹介にて刀自の演說あり。來會者の主なるものは金原明善氏、郡長、區裁判所長、稅務署長、警察署長、郵便電信局長、學校長、辯護士、銀行頭取等四拾餘名にして、聽衆總じて五百餘名。閉會後懇親會の催しあり、刀自出席、來會者官民合同四拾餘名なりき。

同　三日　午前高等女學校の請に應じて演說す。午後一時より更に東本願寺別院にて演說す、聽衆二千餘名滿場立錐の地なし。尙同別院の後室は即時入會、每年金貳圓宛寄附の旨を申込まれたり。同院世話掛の言によれば右聽衆三分の一は入會すべしと。

同　四日　午前大垣出發、羽島郡竹鼻別院に到着、同院にて演說す、聽衆大に感動し從來本會の存立を知らざりしを恨むもの多く、即時入會し且つ他を勸誘せんとを申出づるもの少からざりき。此夜同院に一泊。

同　五日　午前八時出發笠松に向ふ、女人講より二名の出迎者あり。郡役所にては昨日來、附近の村落へ郡書記を派遣し大に盡力せられたるがため、本日は非常の大雨なりしにも拘はらず、演說會は頗る盛會にて聽衆二千餘名、刀自演說後女人講の人にて贊成演說を試むるものあり、又た入會申込帳簿を調製するの盛況を呈し、郡長及び同夫人は勿論本會の趣旨を贊成し、郡書記夫人等をも誘導すべき旨を語られたり。

同　六日　笠松町出發、再び岐阜市に向ひ、午後二時より西本願寺別院にて演說す、聽衆二千餘名頗る盛會なりき。當市にては本會評議員原鎌子刀自の代理として、村岡鬼一氏非常に盡力せられたる外、笠井書記官、力丸高木兩縣屬、島澤赤十字社書記、渡邊同看護婦取締、及び東本願寺別院の宇佐美賢遏、車村雄鳳、女人講の勅使河原じゆん子、杉山ことう子、子安すて吉等の諸氏は前後二回共頗る幹旋せられたれば、當市のみにて今日迄に五拾餘名の入會申込ありたり。又縣廳にては幹事長不在にも拘はらず、刀自が郡部巡回中に大に會務を處理して、支部の組織を發表し得べき運びに至りたりと云ふ。

同　七日　岐阜縣。

同　八日　午前九時岐阜市出立、力丸、高木兩縣屬、赤十字社書記、同看護婦取締及び村岡鬼一氏、車村雄鳳氏等停車場迄見送られ、同十一時名古屋着。停車場には赤十字社主事書記松下鶴氏、及び當市慈善界に有名なる片野すゞ子女史は、刀自の勢援の爲め、去四日わざ〳〵大垣に出張せられたる以來、岐阜にては知り合の病院長等を誘導せられ、當市は自己の郷里にして、父君は多額納稅者にあれば、殊に父子共に大に盡力せられたり。

同　九日　午後二時名古屋市役所議事堂にて演說開會、市長の紹介を以て刀自演說せらる、聽衆には控訴院長、書記官、檢事長、病院長等の各夫人、高等女學校教員生徒を始め、中學校長同教員等貳百餘名の主なる來聽者あり、師團長夫人は病氣の爲め、刀自訪問の際にも面會せられず、德川侯爵家よりは代理として家從出席せられたり。

同　十日　午後二時清流女學校にて職員生徒等に對して演說す。

同　十一日　午後一時より名古屋市園井町通り本町立正安國會にて演說す、聽衆は僅に五拾餘名に過ぎざりしかども、即時入會の申込ありたり。

同　十二日　午後二時愛知郡熱田町像福寺に於て演說會開會、同地警察署長市原氏非常に周旋せられたり、聽衆は三百餘名同郡長夫人、桑村愛知縣技師夫人、及び熱田神社桃官司夫人、同所警察署長夫人等其主なるものにして、署長夫人は率先入會せられ、其他にも續々申込ありたり。

愛國婦人會々報

◎費途指定寄付金受領　本會々則第四條には常に有志者の寄付金を希望すとありて費途指定の寄付金取扱方法なし、然るに現に子爵松前修廣并に京都支部幹事伊澤千年子より本部建築費として寄付せられたり。其他青森事變に對する寄付あるにあり、同附後費途指定の寄付金も差支へなき限り受領しては如何との議題に對し、本年三月十九日の評議員總會に於て受領する事に決定せり。

◎機關新聞發行の件　本年三月十九日の評議員總會に於て本件決定し「愛國婦人」を發行する事となれり。其議案の理由は（本會事業の趣旨目的を廣く世人に知らしむる爲め、并に本會業務進行の狀況を會員一般に知悉せしむる爲め、及び本部職員方に事務上通報の必要ある爲めにて其題號は「愛國婦人」若くは「東洋婦人」と號しては如何、但し之に要する費用は本會の會計に關係せずと雖も、本會の職員は之を購讀するの任意的義務あるものと致し度し）との議案なりし。

◎評議員の增加　今般會長より左の夫人を評議員に推薦せられたり。
評議員　男爵　堤正誼夫人　堤　常子
同　陸軍少將阿武素行夫人　阿武　春子

◎相談役の歐米漫遊　本會相談役并に會計監督なる澁澤男爵は去る十五日出發歐米漫遊の途に上りたり十月頃歸京の筈なり。

◎地方副幹事長增加の議　各府縣の副幹事長は從來二名の規定なるも、會務繁劇の地方には三名に增加の儀申込みある趣にて來る六月の評議員總會に於て決定を與ふるよし。

◎小笠原相談役の書信　過般渡英の途に上りし子爵小笠原長生氏より佐藤少將宛の書信を左にかゝぐ、
拜呈陳は本日無事新嘉坡に著仕候間乍憚御安意被下度出發の際は雨天にも不拘評議員の方々御見送り被下候事奉感謝候閣下より可然御鳳聲被下度願上候本艦は廿三日コロンボに向ひ出發豫定に御座候當地にて只今領事久永三郎氏に面會致候處愛國婦人會隆盛に赴き候事承知致居候條御一同の御責任彌よ重き事と存候先は御報知迄如斯御座候敬具
明治三十五年四月廿日
新嘉坡に於て　小笠原長生

◎新潟支部發會式　去にし三日午前十時より赤十字社新潟支部看護婦養成所に於て開會、出席者田中同縣書記官、八木市長を始め柏田縣知事夫人、田中書記官夫人其他來會者百三十名、第一に同縣支部幹事長柏田夫人の祝詞、同副幹事長田中夫人の答辭、來賓田中書記官の祝辭、評議員岡部少將の夫人病氣に付小野少佐後室の代理演說あり、同十二時頃散會せりと云ふ。

◎神奈川縣支部總會　神奈川縣支部にては會員募集の件に關し此程幹事會を開き、支部第一回總會を六月上旬に開く事、幹事の數を增加し本月廿二日迄に會員千二百名以上を募集する事等を決定せしよし。

◎幹事橋口きよ子の盡力　東京府西多摩郡長夫人橋口きよ子は此程來非常の奔走にて、新たに郡内にて會員百五十名許募集されたり。依て此郡だけにて已に從來の會員を合すれば四百五十名となれり。然るに夫人の希望にては優に六百名に達せしめたしと申し居らるゝ由。

◎篤志なる校婢　名古屋市高等女學校の校婢兒島あい子は斯る境遇に在る女子なれども、其心がけいと殊勝にて平常學校職員たちに愛せられ居る由なるが、此程奥村女史が同地へ遊說のみぎり其演說に感じ入り、直に通常會員に入會申込みたりとぞ。

學事彙報

◎高等女學校長會議の議決　過般文部省に開會したる高等女學校長會議の議決事項左の如し。
一　教員缺勤の場合は講話復習練習等をなし教員出席の場合塡補をなし長期缺勤の場合は學科日に應じ臨時教師雇入又は合級の教授を爲す事
一　作法を實際に適切ならしめんか爲め實物につき實習せしめ又は生徒實行を監視し來賓の接待送迎挨拶配膳給仕を爲さしむる事
一　學校と家庭との連絡を親密にせしめんが爲め父兄懇話會を開き式日又は會合に父兄を招待し學校家庭の通信をなす事
一　教授上可成變體假名を廢する事
一　補習科に於て小學校教員たるの豫修を爲さしむるの不可なる事
一　修身科中に於て操行點を付し又は別に操行點を定め之を進級の條件中に加ふるの不可なる事
一　高等女學校令施行規則第廿五條中「修身」の下に「裁縫」を加ふる事及同第三十三條中「修身」の下に「國語、外國語」を加へ「地理」の下に「數學」を加ふる事并に高等女學校寄宿舍に於て厨房を設くるの規定を加ふる事、同上に作法の特別室を加ふる事、同上施行規則は中學校令施行規則を準用せざる事
一　技藝專修科入學資格は高等小學校二ケ年の課程を卒りたるもの以上に於て定むる事
一　高等女學校寄宿舍の構造は小規模と爲し一棟の人員を凡そ五十人以下とし之を二部に別つ事

◎華族女學校　同校には去にし十三日春季大運動會を開きたり、當日は別項に記したる如く　皇后陛下行啓あらせられ、又常宮、周宮、富美宮、泰宮の四内親王殿下も成せられ、生徒の運動競技を御覽ありたるよし。

◎日本女子大學校　同校には過般大學部校舍の一部新築中なりし處、近日落成するよしにて落成の上は附屬高等女學校内に教授し來りし、大學部の一部の生徒を右校舍に移し、授業する趣なり、尙同校における大學部生徒は、合計二百六十四名にして府縣別は左の如しと云ふ。（但五月十五日現在調）

東京	三〇	京都	八	大阪	一一	神奈川	四	兵庫	一二
長崎	四	新潟	一一	埼玉	九	群馬	四	千葉	八
茨木	九	栃木	一二	奈良	三	三重	四	愛知	八
靜岡	一〇	山梨	一	滋賀	三	岐阜	三	長野	二一
宮城	一八	福島	一〇	岩手	八	青森	一	山形	一八
秋田	三	福井	四	石川	三	富山	六	島根	一
岡山	一〇	廣島	七	山口	一一	和歌山	三	德島	五
香川	八	愛媛	一三	高知	七	福岡	九	大分	四
佐賀	一三	熊本	一二	宮崎	四	鹿兒島	三	北海道	八

◎東京音樂學校　同校長渡邊龍聖氏は、去る十七日出發清國漫遊の途に就き、不在中の事務は同校教授上原六四郎氏取扱ふよし、尙同校募集中なる師範部生徒の試驗は、去る十五日より開始せしよしなるが、明廿六日試驗終了のよしにて、本學年に於て採用すべき官費生は、男生徒二十名女生徒十名の趣なり。

◎高等女學校生徒の大森行　東京府立第一高等女學校生徒一同二百五十名は、去る十六日午前七時五十五分新橋發汽車にて大森に赴き、春季運動會を催ふし、午後四時五分新橋着列車にて歸京したる由。

◎夏期女子講習會　東京府教育會にては、七月廿八日より同八月十六日まで東京府第一高等女學校内に夏期女子講習會を開く由にて、其の學科と講師は、國語（前田拾松）音樂（小山作之助）家事育兒法（波多野とく子）なりと云ふ。

◎女子美術學校の料理法講習所　去る十四日より開講の由にて、初等高等の二科に分ち、更に日本料理支那料理西洋料理に別ち、修業期限は三ヶ月、特に一家の主婦の爲め高等科は重に午前中に授業すと云ふ、日本料理擔任教授は、赤堀峯翁同峯吉の二氏なり。

◎日本女子講習會　長岡護美子の會長にて、細川潤次郎男顧問となり、此程より小石川竹早町に開設したる同會は、普通高等の二科に分ち、普通科は小學校教員、高等女學校第三學年の程度、又高等科は女子高等師範學校入學、文部省教員檢定受驗準備を主とし、六ケ月を以て講習を終ると云ふ。

◎女子裁縫高等學院　帝國教育會内にて小出新次郎氏が開校せる同校にては、先頃より坪井理學博士の人類の衣服に關する講演を開始せり。該講演は人類學上より根本的の說明を與ふるものなれば、服裝改良の論議しき折柄、之が參考となるべきもの少からざるべく、第一回には古代日本國玉時代の服裝、第二回はアイヌ、第三回は朝鮮の服裝につき各實物によりて說明せられたりといふ。又哲學博士山口三之助氏の兒童心理學の講義は、氏がエールス大學及びクラーク大學に於て研究したる最新の事實を講述さるゝものなれば、其說の斬新なるのみならず、女子の心得べきこと誠に多しといふ。尙ほ小杉博士も過日我國の古實につき第一回の講義を同院にてなしたりと。

◎女子職業學校　去る十一日同校に於て催したる同校生徒製作品展覽會の參觀人は六千餘名にして、同日販賣したる物品代價は千四百二十圓四錢に及び、之れを前年度に比すれば非常の好成績なりと云ふ、又同校にては右賣上金の幾分を生徒に與へて貯金せしめ、卒業の後就業資に充てせしむる筈なりと云ふ。

◎成女學校料理講習會　麴町の同校には、過日春期講習會を終へたるよしにて、引續き本月廿一日より開會の由。

◎成女學校校長　吉村寅太郎氏は、今般第四高等學校長に任ぜられたるに就ては、同氏に於て直接事を見る能はざるも、同校設立者の事なれば、今後も長く同校の爲め、盡力する筈なりと云ふ。

◎札幌高等女學校の位置決定　兼て位置の選定に就き紛擾を極め居たる、北海道廳立札幌高等女學校の位置に就て、文部省より札幌區北二條西十一丁目に選定を認可せられたり。

◎廣島縣の子守學校　廣島縣豐田郡三次尋常小學校の附設として、三次子守小學校といふ者あり、町費及び寄附金に依りて一昨年より開設せられ、小學校の教課後、同校教員の篤志を以て教授を爲し居り、生徒は十一年より八七年までの少女にして四十五人あり、其成績頗る良好にして、將來大いに發達の見込ありと云ふ。

◎帝國教育會夏季講習會　本年八月一日より同廿五日迄帝國教育會にて夏季講習會を開き、女子なりとも入會せしむるよし其學科及講師は教育學波多野氏、實驗心理三宅氏、西洋歷史中川氏、法制經濟葛岡氏、應用植物學安田氏等なり、尙同會には夜間夏季講習會をも開き、英語科の講義をなすよし。

◎仙台淑德女學校設立會　此程仙臺に於ける佛教徒の間に慈善的女學校を起すべき目的を以て、表題の如き會を設けたり。

◎女子體育振作方法　愛媛縣教育會にては女子の體育に關し、此程左の如き決定をなしたるよし。
社會に於て改良獎勵すべき事項（一）形容に關する事項、一衣服は成べく和服を短くし裾も足に纏はれざる樣仕立しむる事、二帶は幅を狹くし地質の柔かなるものを撰ばしむる事、三腰帶及び帶上げを締めしむる事、四股引を用ゐしむる事、五外觀を裝ふため寒中薄着せしむる事、六下足は可成輕便なるものを用ゐしめ雨天の外は雪駄草履又は低き下駄を用ゐしむる事、七髮は輕便に結び時々洗滌せしむる事、八裝飾は輕便質素ならしむる事、九濃厚なる油及鉛粉を用ゐしめざる事（二）飲食に關する事項、一營養物を撰擇せしむる事、（二）粗食及少食の習慣を改めしむる事、三間食を廢せしむる事（三）運動に關する事項、一室内遊戲を獎勵する事、二散步及遊戲に適せる場所を設くる事、三夏季には游泳を獎勵する事。

◎正誤

○宮城縣支部より左の申越ありたるに付全文を掲けて粗漏を謝す
二伸去る三月三十日を以て愛國婦人會第一大會御開の節當地方會員宗像なを子錦戶じゆん子の兩名より祝電發送候由の處愛國婦人第二號祝電發送者中に右宗像なを子の姓名相見得不申候間誤脫にも候はゞ次號御發刊の節御訂正相成候樣御取計被下度爲念此段申上候也

○第二號社說中ブラジル特命全權公使リマ氏とせしは代理公使リマ氏の誤り

○第三號京都支部大會記事中評議員松前子爵夫人の祝電を脫したり

○第四號學事彙報中本鄕英語學校に女子の入學を許す由記せしは間違なる由同校より申込ありたれば玆に正誤す。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎婦人論梗概

◉「兒童研究」雜誌の「女子教育變遷」 「兒童研究」は高島平三郎氏主幹たる教育雜誌なるが其第五卷第三號に於て論じて曰く、明治學制頒布後兎も角も女子を教育するといふ事は次第に行はれしが其教育の目的とする所二度變遷して今また三たび目に遷らんとせり。變遷の第一は「學者養成としての女子教育」なりしが此の間違ひなることはいふまでもなし。其第二は「良妻賢母としての女子教育」にしてこれ尤も我國にて持てはやされ居る方針なるが此方針のをかしい事は男子の學校に「良夫賢父を作るを以て目的とす」と書き著す馬鹿の無きにても分る話なり、人間はどうせゆく／＼は夫とも妻とも父とも母ともなるものなれど若人間の是非踏むべき故にとて教育の目的とするなら人間は皆死ぬものなる故「人は死ぬために教育を受けるのだ」というてもよいわけなり。此やうな主義の教育を受けて居る女子は醜業婦が容貌を以てか又は遊藝を以てか好き嫖客に買はれるを願ふやうに「學問してよい所に嫁にゆきたい」といふさもしい心を起すやうになるものなり。然らば第三に出づべき眞正の教育主義は何ぞやといふに「人格修養としての女子教育」是なり。即ち人間たり國民たるに於ては男女に差のある譯なければ普通教育は人として當然具ふべき知德位を修養さするのが目的なり。勿論男女には心身の組織に差違あれば教ふる材料や程度には差あるべけれど之がために男は人物を養成し女は單に妻となり母となる ためである といふ理なき也、今日は良妻賢母主義跋扈して挿花や點茶に可惜時間を費し大事な修養を遺すの傾きあり、尙ほ今後は「事なかれ」主義の老先生に托することなく、壯年有爲の人に女子教育を托して研究するやうに致したし云々。

◉吳文聰氏の「結婚論」 結婚は自由意思に基く任意の行爲なりや、將た社會的强制力に左右せらるゝものなりやと云ふに、一面は任意の行爲なるも一面は社會の强制力に起因するものなりとて、數字上の證明を揭げ、一定の數の外は社會の中如何に結婚希望者多きも、社會の事情は之を許さゞる事を證明し、結婚の多き時期は事業の繁榮、輸出の增加、收穫の豐饒戰後復活等にして、其少きは凶年、戰爭、事業の萎靡にありとの斷案を下せり。尙離婚の數は各國共に增加の傾向あり、其原因は一に宗教心の薄弱、二に生活の困難なり、然るに日本に於ける離婚の數は万國に冠たり。其原因は一は結婚離婚共に法定の規則なかりし事、二は男尊女卑の風強なりし事、三は家族組織にして同居制を採用せる事、四は新舊思想の衝突、五は撰擇愼重ならざる事、六は父母の關渉過度なる事、の六項を揭けて之を說明し、現今妻を撰ぶに付ての要件は、一に血統及家族の組織、二に年齡、三に體格、四に才能、五に品行、六に容姿、七に教育、八に身分釣合の八項目なるも、此外に尙一性質、二希望、三慣習、四信仰五嗜好をも加へざるべからず。如此要を要る時は頗る周到なる調査と注意とを要するに、日本人は此注意に於て大に缺くる處あるを以て、離婚多き所以なりと論斷せり(統計雜誌)

◉大隈伯の「女子と高等教育」 我邦に於ける女子教育の歷史は、多くは失敗に屬す、故に女子の高等教育に關しては教育家に於ても疑問中なるが、其疑問を引起す點は身體の健全と智育の發達と相伴ふや否やにあり。此點に付ては自分も十分なる解決を與ふると能はざるも、德育問題に關しては、近來の議論は徒に形式に流れ、社會の現狀に背き、高尙なる理想に馳せ、乾燥したる宗教的の觀念のみを以て表現するが如きは、大に誤りにして、現時の社會人情風俗に應ずるものを以て、基礎と定め、教育せざる可からず、即ち此點に於ては常識の養成を勸めざる可からず云々。(東京教育時報)

◉大阪朝日記者の「女子教育論」 女子教育に對する主義方針の常に變動極まりなきは、畢竟女子問題の性質上好奇輕浮に流れ易く、尤も浪擧ならざるによる、加ふるに女子問題は常に社會改良問題と相伴隨するものにして、此社會問題程冷熱常なきはなし。明治十七年頃、社會改良問題の盛んなりし時も、大に女子問題起り、其後一大頓挫を經て近年に至り、社會改良問題と共に女子教育問題も盛んになりしは、大に賀すべしと雖も、其反動として風俗慣習の變化は忽ち流行となり、其流行は非常に迅速なる力を以て發達せり。此快速なる流行は、取も直さず不健全の徵候にして、之れが爲めに必要なる女子教育の發達に累を及ずに至るべし云々。

◉時事新報記者の「排妾論」、男子か妻の外に一種の婦人を蓄ふて之を妾と名け、一夫多妻の醜を犯し、其間に庶出の子女を見るか如きは、之を目して人にして、禽獸の行ひを行ふものと云ふとの前提の下に、其不合理と其害毒とを陳へて曰く、元來一夫多妻は、人倫道德に反するや、否やの問題は暫く之を別とするも、現在社會の事實に徵すれば其害あつて利なきは明にして、維新の際に於ける社會秩序の變動に伴へる風儀紊亂の所爲は三十年の今日尙ほ其餘波を收めず して紳士の家庭の風波頗る騷かならすして醜名を世間に流すものあり、又生前には幸ひに醜の顯はれさるものも死後に於て多數の子女間に財產上 の紛を生し遂に一家の沒落を來す等は珍しからざる處に して之れ等は皆一時の情慾に驅られ多妾の醜行を敢てして自ら家庭を攪亂し子孫に害 悪を與ふるものにして其愚は禽獸にたも若かずと論結せり。

◉「日本」記者の「女子教育の方針」 女子教育の問題は直に婦人問題と關聯する問題なれば、婦女子の社會に於ける地位および職分が論定 せられざる限りは、其の教育方針また確立すべからず、百年前西洋に生れたる此の婦人問題は、現時にては實に社會に於ての地位のみならず、政治界に於ての職分もまた男子に同じからんことを主張す。中等以上の婦女子にして其の家庭以外に有すべき地位職分が、若しもこゝにいふ同權論の如きものとせば、女子教育の方針もまた之に應じて設備せざるべからず、然るに吾邦近來の世論は婦女子の地位職分を家庭內に限り、多くとも家庭の主權者としてこれが教育をいふに在り、即ち良妻賢母の養成を女子教育の目的となすは、今日わが世論の趨勢なり、頃者文部大臣が高等女學校長會議に於て演說したる所、また此の世論と一致するが如し、今日の世論は男女同權論の時代をも一たびは經過して、成立せるもの所謂る良妻賢母を造るといふを女子教育の目的とすることは國の實情と抱合したる進化の結果とも見做して可ならん。元來婦女子は生理に於て已に男子と同じからざるのみならず其の心理に於てもまた自ら一種の特性を賦與せらる男子の能くせざる所は女子之を能くし女子の能くせさる所は男子之を能くする是れ兩性の相俟つゆゑん男を重んじて 女を輕んずるは固より其の謂はれなきも 女子をして男子と同一 の職分を負はしめんと擬するか如きもまた女子を重んずる所以に 非ず寧ろ之を輕んずるに均し云々。

◎婦人會彙報

◎婦人同情會員の監獄一覽 板垣伯は去にし十五日午後一時より婦人同情會員(貫夫人令孃等の設立に係る)と共に市ヶ谷監獄署に於ける女囚室其他の模樣を一覽したるが、其の際鍜冶橋監獄署より出張の藤澤典獄は右の人々を案內して就役其他の模樣及び犯罪の依て起りたる次第等を詳細に說明したるに、何れも大に同情を寄せ、中には女囚の手許に發育されつゝある當歲の子女四人の者へ種々なる玩弄物及び菓子等を惠與したるものありといふ。

◎淺草婦人法話會春季大會 は此程淺草本願寺に於て開會、初に讀經次に奏樂唱歌あり下田歌子女史は開會の趣意を陳べ、岩倉會長の式辭、新法主の垂示、文學博士南條文雄師の法話、理學士石川成章氏の演說等終りて能狂言其他の餘興を催し、茶菓の饗應等あり、出席者八百餘名にて中々の盛會なりしと。

◎婦人共立育兒會 同會は去にし十二日神田青年會館に於て開會、同會の總裁有栖川宮妃殿下には、田中宮相夫人を從へ、會頭鍋島侯爵夫人の先導にて御臨場あらせられ、一同に御會釋あし後ち、演壇に立たせ給ひ、教百名の會員の最敬禮を受けさせられ左の令旨を御下賜ありたりとぞ。

我婦人共立育兒會は年を累ねて玆に第七回の總會を開くことゝなりぬ幸に會頭幹事及び會員の盡力により會務の大に進みしことを長くも 皇后陛下聞し食し給ひて昨年そこばくの黃金を下し賜はりしは本會の幸ひ之れに過ぐるとあらじいましたち此厚うかたじけなき御意を心としますます勵み會務のいよいよ盛になりゆかんとを勉めよ

それより會頭の挨拶、并に該會の顧問たる金子男爵の演說及び餘興あり、同三時半散會せり。同日有栖川妃殿下より金參百圓御下賜あり、鍋島近衞夫人以下夫れ／＼若干の金圓を同日寄付せられたり。

◎慈善音樂會 岡山孤兒院東京分館設立の爲め去にし十七日上野音樂學校に於て慈善音樂會を開けり、同日の發企者は近衞公爵夫人池田大山の兩侯爵夫人松前松平兩子爵夫人を初め貴婦人方十數名にして來會數百名非常の盛會なりし。カイセル孃の獨唱幸田延子孃のヴァイオリンいつもながら、殊にいみじくものせられたり。

◎山口婦人會 同會は此程山口俱樂部に於て開會、山口高等學校の教授諸氏も來會有益なる談話ありしよし。

◎鹿兒島縣國分婦人會 同縣姶良郡國分村に於ては、今回國分婦人會なるものを組織したるよし。

◎宇都宮婦人衞生會 去る十一日宇都宮市塙田に於て開會、講演等あり終りに餘興もあり、出席員八十名ありたるよし。

◎信濃婦人會 信濃大町なる婦人同窓會此程開會し仁科湖に舟遊の催しをなしたるよし。

◉海外彙報

◎婚姻費用の富籤 露國のスモレンスクには他に類無き奇習有り、之れは婚資無き婦人の爲めに每年四回づゝ富籤を行ひ、一口一ルーブル、總額五千ルーブル(一ルーブルは我國の一圓強)を結婚を望む人々より集め、籤に當りし者へ其婦人が五千金の持參金と共に嫁する方法なり、人よりも金と結婚するは何處も同じ人情とて、每回購員は有り餘ると云へり、若し其婦人が當籤者に嫁するを嫌ふ場合には、購金は割戾さるゝ方法なりと。

◎奇妙なる婦人職業 英國龍動に於ては、富豪の住宅多き街をば馬車又は自轉車にて、每夕晩餐の時刻前、料理の加減を見て廻る職業あるよしにて、此職業在て以來料理人の不正なる仕方大に改正せられ、且つ料理法にも大に進步を來したりと云ふ。

◎一種の小供預所 米國の教會堂には母か其會堂に詣でゝ靜かに說教を聽く間、其小供を預り置く處ありと云ふ。

◎倫敦女の髮の毛 全歐中で倫敦市は髮の賣買で、有數の市場と目されて居るだけ、同市へ每年輸入する髮の毛は其額三万九千貫を超ゆるが、一体佛國婦人の髮の重量は平均四十二匁、獨は六十七匁中、伊は四十五匁なりと。

◎身の長を伸ばす法 或る歐洲の醫學者の說に據れば、步行する際姿勢を正しくすることは、脊の發育に大なる關係ある由にて、成年の人にても每日二回、五分或は十分間、書物或は輕き物を頭上に載せ、落ちざる樣にして運動するときは、躰の姿勢正しくなり脊も伸びると云ふ、又脊伸びすることは身長を伸ばすためのみならず、健康上極めて必要なることにして、寢るときも起るときも必ず脊伸するを可とす、尙又足を曲げず躰を屈め、兩手を伸ばして手の指を足に觸れしむること、及び躰を直立し左右の足を代る／＼伸ばし、足を以て圓を畫く如きことを勵行ふときは、足の筋肉を働かしめて身長自然に伸びるものなりと云ふ。

◎音樂家と禿頭病 米國イートン博士の調査に依れば、世界中禿頭は音樂家に最も多く、現に米國音樂家中五割位は壯年にして禿頭なりと日本の音樂家も又四割位なり、

◎支那の女學雜誌 上海の蘇報館より「蘇報」の附錄として本月八日より當分每月一回刊せられんとするもの、女子擧學の心を感發するを目的とすと稱す、論說傳序及各國婦人已往現在の奇才、纖學者及奇志異行あるものは選て之を載す、又た所說多少偏頗なる所あらんも是れ女學を勸導さする一時の器なりと辯せり、未だ原本を見ざれども支那人が女子の教育にも着目し來れる一例として見るべきか。

◎雜報

◎女子と事務員 印刷局及び電話交換局に採用し居る職工的女子は暫らく措き、遞信省に於ける電報調査所、爲替貯金管理所、東京大阪の郵便電信局、鐵道作業局運輸部の女子事務員採用後の狀況及び其成績なりと云ふを聞くに如左、

▲電報調査所 二十六年八月初めて女子を採用し、現に五十二人あり、事務は頼信紙と着信紙の對照、鐵道、電信に依る交付金調査なり、何れも未婚者にして、年長は二十九歲年少は十五歲、日給の最高額は三十五錢、最底額十七錢なり。

▲爲替貯金管理所 現に五十九人採用せり、俸等の者は悉皆男子の執りたる計算事務に熟掌し、簿記計算等稍々高尙なる事務を分擔せり、年長は三十六歲年少は十四歲なり、日給の最高額は三十錢にして、其最低は十七錢なり。

▲鐵道作業局運輸部 現に三十一人あり、運輸日報及び旅客、貨物發着表に關する調査をなし、又合計の一部を擔任せり、日給の最高は二十七錢最低は十七錢。

▲東京郵便電信局 三十三年第一回を採用し、現に三十一人あり、監査課に屬する爲替貯金の調査に二十一人、規實係遞送課記調査に四人、窓口事務に六人を配置したり、窓口事務は爲替貯金の受拂、書留、小包、價格表記等の引受事務なれば、公衆に接するに最も親切を要するものなり、現今既婚者二十六人あり、日給の最高は三十錢最低は十八錢なり、

以上の狀況に依り、其採用後今日迄事務成績の良好なるものは、爲替貯金管理所に於ける簿記及び計算事務の熟掌是れなり、又右列擧の各官衙は、今後益々事務の繁忙を來すべければ、機を見て女子事務員をも增加すべしとなり。

◎婦人內職の減少 烟草營業者が機械を以て工場內に仕事をなさしむる樣に企てしより、烟草の內職頓に減じ、裏店住ひの婦人等は大に困り、マッチ提灯とあせれども、これは數に限りあるものとて思ふ樣にはならぬにぞ、遂に勞役に出づるもの多く扨こそ近來土木工事等に婦人の立交る次第なりといふ。

◎妻は夫の不當命令に服從する義務なし 先頃大審院に於ける離婚訴訟の判決によれば、妻は夫の不當命令に服從するの義務なきなり、則ち判決を摘記すれば、夫の命令か妻に於て當然爲さゝる可からさる行爲なるにも拘はらず、妻か之に服從せさるか如きは、妻の義務を盡さゝる者なりと雖も、若夫の命令か妻に於て、當然爲す可からさる行爲、又は爲し得べからさるに於ては、妻か夫の命令に服從せされはとて、夫か之を理由として離婚の申込をなすに於ては、其申込は不當なるものなり。故に妻の爲さゝる仕事が、何等の行爲なりしかを審糺して、其事實を確定するに非されば、離婚の當否は判定せられす。然るに控訴院に於て其仕事か何等の行爲なるやを說明せすして判決せしは、理由を付せさる不當の判決につき破毀すると云ふにありき。

◎交詢

▲前略 新聞雜誌は濮派に偏し宗教の臭味あり不潔の記事あり抔致候て家庭にて讀むに適當不仕候愛國婦人は此點に御注意被下度候かしこ(兵庫會員伊藤まつ)▲愛國婦人購讀謝絕の申込致候にも拘らず又候送附せられ困り候旨會員中に申す者も有之候非々發送に御注意有之度候(熊本會員某)▲およばずながら會員の端を汚し居り候上は御會御發行の愛國婦人終世愛讀致し候ふまゝ右承知下され度候下略(群馬會根外枝)▲私事愛國婦人御發行以來購讀致居候處倍々貴會の趣意をさんし大に感じ中候私は勞働者の妻にて無學に候へ共此際ふんばつ仕り當山にて少くも十人以上の同感者をつのり貴會へ入會致させ度存候今ほんそう中に御座候來る六月貴會通常會員と相成度存候下略(北海道夕張炭山南ソト)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

會員方に申す

本誌は愛國婦人會機關に付き會員の君だちへ一般に配布致し愛讀を願ひ候處幸に同情を表せられ陸續愛讀の申込みを給はり候段本懷の至りに候

尚ほ多數會員の君だちの中何等の通知をも辱うせざる方々少なからず右は引續愛讀の思召なるべしと推察致し候へども念の爲御一報を煩したく懇請の至りに候新聞代價は同時ならずとも宜しく候

本誌發送もれ或は購讀見合せの通知ありし後再び配布致候など往々間違を生じ耻入申候今後に於て自然右樣の間違を生じ候節は其旨御通知願上候當方の間違にてさし出し候新聞に對しては申すまでもなく代價は請求仕らず候何分多數の發送を直接に取扱ひ候儀に付き創業の際事務末だ緒につき申さず不行屆の段幾重にも諒察あらんことを希ひ候かしこ

愛國婦人發行所

正四位勳三等醫學博士 三宅秀先生著
大日本女學會發行 日本女子大學校教科書

家事衛生

總クロース綴ち金文字入り菊判二百四十頁定價金六十錢郵稅金六錢

此書は文部省學校衛生顧問內務省中央衛生會委員元醫科大學部長なる三宅博士が文部省の囑託により講義されたるものなり書中に衣服食物住居育兒看病の五篇ありて我國一般の民度に應じ何れの家にても實行に差支なき樣懇切に說示されたり世に類なき家庭主宰者の寶典なり

田邊和氣子刀自遺稿

此書は故田邊女史の令名を不朽に傳へんとて大日本女學會より紀念の爲に發行せられたるなり書中に割烹點茶活花の三篇あり是等の科目を說きたる書世に多けれども之を讀みて實際に講習し得らるるものは此書のみなりとの世評あり是れ畢竟女史が京都高等女學校華族女學校東京女學館大日本女學會等に於て多年授業法に熟練せられたりし結果なりといふ

●總クロース綴ち金文字入り菊判五百四十頁定價金壹圓郵稅金拾貳錢

大賣捌所 東京神田區一橋通町七 有斐閣

好學園女子寄宿舍

本園は家族的の寄宿舍にして園生をして都下各種の女學校に通學せしむるの傍ら園內にありては嚴肅なる監督の下に家政炊事の實習をなさしめ夜間は教育倫理衛生家事に關する講話をなす本園の師父は嚴本明治女學校長成瀨日本女子大學校長松村介石三輪田女學校長島田三郎の諸氏にして園長は千田時次郎氏なり

麴町區三番町六十八番地 好學園

再版

婚禮千代かゞみ

無類の美本
全一冊正價金六十錢　郵稅八錢

石井泰次郎著

本書は我國唯一の婚禮式書にして結納より媒人心得に至るまて百九十二條に分ち平易丶明細に記述したる耳書なり

日本橋通二 小林新兵衛

少女界

◎第貳號 五月十一日發行 ◎定價一冊拾錢 郵稅一錢五厘 ＝十冊前金七十六錢五厘 四冊前金一圓四十三錢

（口繪）少女（石版彩色畫）（寫眞版）＝皇后宮陛下●靖國神社●龜戸の藤●熊と駱駝●泝●下田歌子女史●十二一重

（少女界）
●少女と武士道……三輪田眞佐子
（御伽談）
●水仙姫……西川芳溪
少女小說いちご……堀内新泉
（學術）
●文話……大和田建樹
●月のはなし……まつね
●清浄庵妙海……神谷鶴伴
●水族館……有明文吉
●わらびとり……歌 大和田建樹 曲 吉田信夫
（雜錄）
●蝶の子……山田美妙
●ひめかがみ……友田宜剛
●おもしろき海……友田宜剛
●二人娘のはなし……青木無一
（餘興）
●いろはと數字との謎……舫舫大師
●室內あそび……一記者
●橋の渡船……一記者
●ころばぬ先の圖會……松翁
●もんの剪り方……紋きり生
●刺繡の下繪……樂々生
●花むすび……蝶子
●はめ繪……鐸嶺
●二葉俳句……卌外
（世事）いろいろ（通信）たつぷり（文林）山の如し

◎發行所 東京本町 金港堂書籍株式會社
●各府縣販賣店にて御求を乞ふ

業務擴張 書籍雜誌

◎誠實を旨とし愛國婦人新聞の特約販賣致候
◎愛國婦人賣捌希望の向は申込有之度候

何れの出版を不問 敏活勉強 取次販賣

東京神田表神保町 ◎東京堂◎ 電話本局二四八番

大日本女學會

總裁小松大宮妃殿下副總裁鍋島侯爵夫人

推戴賛成員有栖川大妃殿下小松若宮妃殿下華頂宮妃殿下梨本宮妃殿下其他賛成貴婦人百餘名

新學年を開き會員を募集す

●本會は明治二十八年の創立にて既に學年を改むること三回講習終了者一萬六千餘人を出せり●講義を囑托せる講師は華族女學校女子高等師範學校日本女子大學校等の諸教授及び其他博士學士等著名の專門家なり

本會は國家開明の本源たる女子教育の普及發達を圖らんが爲に女子必須の諸學科を掲げたる講義錄を發行し家庭を離れ難き女子をして居ながら通信教授を受けしめ且つ家庭を整ふる人の參考に資す仍て一般女子素養の程度に應じ高等簡易兩科を設くると左の如し

高等科（毎月一回廿五日女學講義發行二個年終了束脩四拾錢月謝四拾錢紙數菊判參百頁）
○倫理坪內雄藏○禮法佐方鎭子○教育學安井哲子○兒童學高島平三郎○國文坂正臣○文法今泉定介○作歌大口鯛二○美辭學島村瀧太郎○漢文土屋弘○日本歷史大森金五郎○日本婦人列傳下田歌子○萬國歷史喜田貞吉○日本地理同○萬國地理同○地文脇水鐵五郎○理化同○算術上野清○博物津田梅子○生理衛生三宅秀○家事衛生同○小兒衛生三島通良○家事經濟後閑菊野○家庭教育三輪田眞佐子○割烹石井泰次郎○裁縫渡邊辰五郎○習字坂正臣○繪畫武村千佐子○圖案同○美學島村瀧太郎○音樂東儀季治○挿花秀島成鐵○點茶松浦伯爵○園藝池田伴親○法制經濟岡戸陸介○民法鳩山和夫○社會學岸本能武太○御伽譚○詞藻○質問應答○雜錄○雜報

簡易科（毎月一回五日女學講義發行二個年終了束脩貳拾錢月謝貳拾錢紙數同百五十頁）
○修身談本會編纂○禮法佐方鎭子○國文同○作文今泉定介○漢文土屋弘○日本歷史大森金五郎○日本地理喜田貞吉○算術上野伊志子○博物小此木忠七郎○理化脇水鐵五郎○生理衛生三宅秀○家事綱要後閑菊野○家庭教育三輪田眞佐子○割烹石井泰次郎○裁縫渡邊辰五郎○習字坂正臣○圖畫武村千佐子○史傳下田歌子○御伽譚○詞藻○質問應答○雜錄○雜報

●會則は端書にて請求あり次第送呈す●束脩月謝を添へ申込あれば假入會を許し直に送本すべし

昨年十一月新學年開始 七卷迄發行 初卷より缺本なし

東京麴町下二番町三七（電話番町壹參參〇） 大日本女學會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎特約販賣店

◎東京堂 神田區表神保町三番地

◎東海堂 京橋區銀座四丁目

美術金製指環

定價 金五圓以上餘は御好に應じ調製可申候

東京下谷池之端仲町
玉寶堂 飯塚伊兵衛
電話本局 特九百六拾五番 一千二百四拾四番

婦人ふるちの藥

定價一貼五錢三貼十四錢五貼廿三錢七貼三十二錢

一此藥剤は婦人血の道一切の藥にして清血を補ひ古血をめぐらすをかんようにして少しも脾胃にさわるとなく血を下すにてはなく血をみちびき通ずる藥なり第一月々めぐり少き婦人はたツぷりと見るなり數年古血滯りある婦人は其のふるちのかたまり殘らずつうずるなり●○南まけづつう目まひによし○ふるちとゝこほり○ながち○しらち○手あしゝびれ○血しやく○ひゑるときさしこみいたむに功わり○むねとしいたみ○つぎむしによし○さんごわとはらのいたみはいかほどつよきいたみにても一ト包にて功わり○さんごわるちのとどこほりに用ひて功わり○猶能書にくわしくしるす

本家製藥所 東京市本所區東兩國横網町一丁目 齒磨店 伊勢吉本店 (電話濱花二七五八)

ねり家名製 寿美艶おしろい 東京伊世吉堇堂

ねりおしろい 定價 大瓶二十錢 小瓶十二錢
水おしろい 定價 大瓶廿五錢 中瓶十五錢 小瓶十錢

●女流文學者

諸孃の原稿を歡迎す

京橋區築地二丁目二十番地 極東社

少女文庫第五編發賣

下田歌子女史著 **家庭の心得** 製本既成

全一冊和裝正價三十五錢郵稅六錢

本書は著者が近來家庭教育不完全の聲世間に囂々たるを慨きこれが救濟の一助として編まれたるものにして少女が家庭に於ける應對進退の節より長幼に對する禮容心得等を詳述せり實に家庭の靈少女の寶たるべき也

- 第一編●お伽噺教草 既刊
- 第二編●家庭お伽噺 既刊
- 第三編●內國少女鑑 既刊
- 第四編●外國少女鑑 既刊
- 第六編●學校の心得 近刊

續刊 本書正價 各一冊五錢全部六冊一圓九十錢郵稅六錢宛

發兌元 東京市日本橋區本町三丁目 博文館

西洋色白くなる洗粉 寿美艶あらひ粉 東京伊勢吉堇堂製

定價 袋入六錢 ツヾク入五錢 袋入三錢

懸賞募集

題 夜の東京 ●文藝界定期增刊

●「夜の東京」に付一題目を捕へて詳記すること●原稿は二十行二十字詰にて(小說)は二十枚以內(其の他)は十枚以內字體鮮明に總振假名とす●當選の分は等級に應じ原稿一枚に付金二圓以下を呈す●一人にて數題目投稿するも差支へなし但し原稿は一切返却せず●〆切は來る六月十五日限●詳細は文藝界第三號に就て見るべし

((七月初刊 婦人界用))

閨秀小說

●題‖隨意但し家庭向 ●分量‖十二行廿七字詰にて凡そ五十頁內外 ●〆切‖八月卅一日限り ●資格‖婦人に限る ●賞‖一等八十圓二等五十圓三等三十圓等外賞あり ●原稿‖一切返却せず

書簡文

●題‖海水浴場から伯母の許へ ●文體‖話語體とす ●分量‖隨意とす ●〆切‖七月三十一日限り ●資格‖婦人に限る ●賞‖一等十圓▲二等七圓▲三等五圓▲等外賞あり ●原稿‖一切返却せず

◎募集所 東京市日本橋區本町三 金港堂書籍株式會社

夏半ゑり帶揚類

新柄友禪 絞り形縫

絽○絹縮○紋縮緬○染形○帶片側○組絞り兵見帶○新模様け出し○別織染下〆○絽手綱○絞り美人

紺絣 新染 浴衣地 向木綿縮眞岡小紋中形染意氣高尚○雀形ゑり治形まげ入

電話新橋二千二十七番 ゑり治 園田商店

新橋竹川町十二番地本店 新橋詰帝國博品館內支店

●女子之友主筆石川正作著 女子 **小學書簡文** 全一冊 定價金廿錢 郵稅金四錢

●女子之友記者鈴木秋子著 ●法學士多田稔秋田信太郎兩先生合著 女子日用 **明治消息文** 全一冊 定價廿五錢 郵稅金四錢

●西洋傑婦傳第三編 **マリアテレザ** 全一冊 定價金廿錢 郵稅金四錢

●女子之友記者鈴木秋子著●家庭小說第三編 **そのえにし** 近刊

發行所 東京市神田區鎌倉町三番地 東洋社

本舗 東京日本橋區横山町十三番 佐野大和堂

大日本女學會發行

總裁小松大宮妃殿下 副總裁鍋島侯爵夫人

東京麴町區下二番町三七

第二卷第五號發兌

《卷首》贊成員大隈伯爵夫人肖像《論說》ビスマーク公の家庭、獨逸特命全權公使アコー、ヴエリー●教育者としての婦人、中島半次郎●室內衞生、高木腎學博士《學藝》和書解題、喜田文學士●數理に關する地理の話、上野清●明治維新の原動力、津田貴啓●兒童の言語、梅澤和軒●作文批評、●今泉定介作歌批評、大口鯛二《修身》處女のしるべ、尾上文學士《齊家》婚禮次第、佐方鎮子●女のつとめ、故田邊和氣子●家庭遊戲、西川政憲●點茶、松浦伯爵《世務》經濟談、伊藤秋南●各地產業の實況「尾張大根」《史傳》英女皇ヴヰクトリアの傳、下田歌子●ヴヰクトリア朝の二大女作家、中島孤島《譚艸》旗振の女、見玉花外《詞藻》のこるかをり、高崎男爵●五月五日宮中月次御歌會御兼題詠進●みやび會員詠藻(第二回競點歌集)《雜錄》露西亞巡遊の話、德富蘇峯●自稱代名詞に妾の字を用ゐる可否、白擣舍主人●國歌上の婦人、吉敷不懷生《彙報》要報十數件

大賣捌 東京神田區表神保町三 東京堂

明治三十五年五月廿五日發行(毎月十日廿五日二回)
明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可

印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN